

令和 3 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 四季の郷

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500062		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホーム 四季の郷		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根北荒巻21番地19		
自己評価作成日	令和3年11月27日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員で作成した理念に基づき、愛情を持ち共に過ごす、ふれ合い、やすらぎ、やる気を引き出し健康で過ごしていただけるように支援することを心掛けています。  
 ・日常生活の中で想いに寄り添いタッチケアや、回想法を用いた生活の支援を行っています。又、一人ひとりの希望を把握し散歩、草取り、キーボード演奏等で楽しんでいただき、笑い声や、笑顔が見られます。  
 ・四季の移り変わりを五感で感じていただくよう、野菜の収穫、干し柿作り等の季節の行事を計画し、楽しんでいただいています。又、職員による回らない寿司パーティーは利用者にて好評で、楽しみの一つになっています。  
 ・利用者一人ひとりの能力を発揮して頂くような声掛けを行い、役割や手伝いを行っていただき、生き生きとした様子が見られます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、県南運転免許センターの近くに立地し、隣接する同法人の特養やデイサービスと連携して運営にあたっている。2年前に全職員が参加して見直した新しい理念の考え方を介護の実践現場で活かすことを心がけており、愛情を込めた丁寧な介護支援が行われている。町内のかかりつけ医等が訪問診療してくれるほか、看取りへの協力も行われ、医療の連携体制は十分に確保されている。また、コロナ禍で集合開催ができない運営推進会議が書面開催となるなか、委員が意見を出し易いかたちに工夫し、また、食事の面でも、職員が利用者の好みを聞き出して提供したり、「回らない寿司」などのイベントで利用者を楽しませるなど、コロナ禍にあっても職員は利用者の笑顔と楽しみのある暮らしに工夫と努力を重ね続けている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月17日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した理念に基づき、愛情を持ち共に過ごす、ふれ合い、やすらぎ、やる気を引き出し健康でいられるように支援することを心掛けている。月に一度の職員会議で唱和している。	2年前職員皆で新たな理念を検討協議して定めている。職員は利用者間のトラブルなどの困難ケースも含め、利用者支援の基本に理念の「愛情・5つの花びら」を据え、目線と方向性を合わせながら、会議でも唱和するほか、法人全体のCS委員会でも振り返りを行いながら、理念に沿ったケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元高校野球部が雪かきボランティアとして来訪し、交流を行っている。利用者の楽しみの一つとなっている。	コロナ禍で地域との交流ができない中、地域の自治会長が町の広報誌を届けてくれるほか、地元の高校野球部の部員が雪かきボランティアを続けてくれている。コロナ禍が改善されたら、保育園児の来訪や地域ぐるみの夏祭り等を再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にグループホーム、認知症について理解していただくために、郵便局に四季の郷の広報を配布する事としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を书面開催としている。利用者状況や行事等の活動について報告し、委員の方より意見聴取を行い、意見や助言をいただき、サービスに生かしている。	コロナ禍のため殆どが書面開催となっているが、利用者の状況や困っていることなどを小まめに報告しながら、意見要望等をいただくことができるよう工夫している。委員に自治会長や2人の民生委員、近隣住民代表者に委嘱するなど、会議の充実に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の職員が運営推進委員となっていて、利用者状況や活動報告について、意見や助言をいただいている。	運営推進委員には町保健福祉センター職員が参加しており、会議資料は毎回送付している。日常的に、介護保険担当課や地域包括支援センターと情報の交換や様々な相談を行っている。生活保護受給者も入居しており、県振興局の担当ケースワーカーから様子を確認する電話照会がある。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的開催し、身体拘束について検討会を行い、確認を行いながら支援している。	委員会は法人全体で3ヶ月毎に開催されている。職員研修も行われており、今年は「身体拘束せずに事故を防ぐ方法」というテーマで実施している。スピーチロックについては、理念に立ち返り優しい言葉遣いに努めている。玄関は、防犯のため夜間のみ施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修会を開催している。資料で具体例を確認し、日常の支援について言動に気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について社内研修を開催し、制度の理解を深めている。利用者の尊厳を尊重し、利用者本位の支援を行うよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は分かりやすく説明し同意を得ている。又、不安や疑問について伺い、ホームでの生活や支援について納得して頂いている。料金等の改定時には、文書で通知し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時に意見や要望を伺い、日常生活に取り入れている。又、利用者が希望を話しやすい雰囲気を取り入れている。	毎月、各利用者の用品等を届けてもらう際に、運動をさせて欲しいとか、好きな歌を聞かせて欲しい等の要望が寄せられ、可能な限り対応している。利用者からは希望等を聞き出すよう心掛けており、ピアノができる利用者にキーボードを用意して楽しんでいただくなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務について職員からの意見や要望を職員会議や、連絡ノートを活用して、意見交換を行っている。毎月の運営連絡会議で、検討し運営に反映させている。	毎月の職員会議のほか日々の業務を通して様々な意見等が出されている。運営のみならず冷蔵庫やエアコンなどの設置についても意見が出され、運営者との協議を得て具体化されるなど、職員のモチベーションの確保にもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心と責任感を持ち、意見交換を行い、働きがいのある職場作りに努めており、資格取得制度を整備し、職員が制度を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修計画を作成し、各研修の機会を設けている。職員個々の能力について指導やアドバイスを行い、自信を持って働けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を図り情報交換しながらサービスの質や意識向上につなげている。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、機会がない状態となっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者についてより多くの情報を得て、日常生活要望を取り入れている。入居後は思いやりを持ちながら会話をし、信頼関係を築くことができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な点について十分に話を伺い理解を深めている。家族が来訪時や電話等で近況を伝えながら、お互いの関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族との話し合いの中から、今必要としている支援を提供できるようにしている。訪問歯科診療や居宅療養管理指導等のサービスを利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者のADLを把握し、有する能力を発揮していただけるような声掛けを行い、役割を持っていただいたり、お手伝いをいただいている。お互いに感謝の言葉を掛け合い、その人らしさを大切に共に過ごしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には生活の様子や体調について伝えている。また、窓越し面会やオンライン面会ではお互いの表情を見て安心されている。更に毎月のお手紙でも行事や生活、身体の様子を伝えている。ブログや広報を発行して関心を持っていただき関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し面会やオンライン面会で家族、親戚との関係が途切れないよう対応している。地域の広報や便りを見る、見慣れた場所をドライブしている。	コロナ禍で面会制限が続く中、オンライン面会にも取り組み、月に2、3回の面会を行っている。また母の日には特に家族に声掛けし、大半の利用者がオンライン面会することが出来た。訪問理容師の来訪が定期的であり、ほぼ全員が利用し、新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、趣味嗜好、身体状況を把握してテーブル席の配置を工夫している。利用者同士が関わり合いコミュニケーションが円滑に行われるよう職員がきっかけ作りや会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転所時等では転所先でも安心して過ごせるよう本人の様子、意向を伝えている。また、家族の意向や相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	調査や入所時に本人や家族から生活歴や趣味嗜好を聞き情報を共有している。入所後には日常の会話等で思いや希望を聞き本人の意向に沿うようにしている。	それぞれの思いや意向について、独自の「課題の整理票」を考案、活用し、入居後も各職員が書き込み、全職員が情報共有することとしている。大半の利用者が言葉で表現できる状態にあり、職員は日々のお話の中から、思いや希望を把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、利用していたサービス事業所から情報収集し生活環境作りの参考にしている。馴染みのある物を自室に持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、共有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや個人記録、申し送りでの利用者の心身の状態や、生活の様子を把握し共有している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 四季の郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に本人、家族に意向を確認している。また、課題の整理表を活用して全職員でホームでより良く暮らすため、課題への対応方法や方針について書き出し職員会議で話し合っている。その内容をまとめ介護計画を作成している。家族来訪時説明を行い確認、了承をいただいている。	職員皆が協力して作成する独自の「課題の整理票」も活用して、計画作成担当者が当初計画を作成し、入居後3か月で見直しを行っている。その後は、随時、各職員がモニタリングを行いながら、多くは6か月毎に見直しを行っている。家族の希望等も伺っているが、なかなか聞き出せないことが悩みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づき、実践したこと、結果や工夫を個別記録に記録している。情報を共有し支援を見直す等介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族が要望や意見を言える雰囲気作りを心掛けている。家族の状況に応じて通院対応を行っている。また、看取り支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校野球部が雪かきのボランティアに来訪している。図書館より定期的に図書の配本サービスを受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名は月2回の居宅療養管理指導を受け他1名は月に1回入所前からの主治医の居宅療養管理指導を受けている。体調変化など伝えている。必要に応じて歯科の訪問診療、通院受診を受けている。また、家族の意向を確認して医師に伝えている。	大半の入居者が町内の診療所から月2回の訪問診療を受けている。医師は随時の相談や往診にも快く対応してくれるなど、医療連携体制は十分に確保されている。普段の健康管理については、事業所所属の看護師が対応し、薬剤師も訪問で対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態を把握し共有している。体調に変化がある時や急変時は看護師に報告、相談し指示を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は医療機関に情報を提供している。入院中も関係が途切れることが無いよう病院を訪問し情報交換している。また、家族の要望、相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、終末期について説明し同意を得ている。看取り期には医師、看護師に指示を頂き各職種が連携して支援している。職員の精神的サポートとして情報共有とコミュニケーションを増やし職員全員で取り組んでいる。	重度化に関する指針や看取りに関する指針を作成済みであり、家族や利用者には入居時に説明して了解を得ている。看取りについては、今年は事例がないものの、毎年数名の実績がある。かかりつけ医師が看取りについても協力してくれ、家族に良く説明してくれる。看取り後は、職員の心のケアに配慮し、全員で振り返って思いを共有することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会でAED使用について確認し、冷静に行動できるように努めている。急変時や事故発生時に備えてマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間、昼間を想定した火災訓練を実施している。隣接の法人事業所と合同で行っている。また、日頃から地域のため池ハザードマップを利用者と確認している。	町のハザードマップでは浸水想定地域や土砂災害危険地域とはなっていない。想定される災害は火災と地震として、隣接する同法人の事業所と一緒に年2回の避難訓練を実施している。地域からは、近隣に住む運営推進委員も協力してくれることとなっている。	夜間想定避難訓練は繰り返し実施することが大事であり、出来れば秋季の薄暮時に暗さを実感して行い、具体的な課題を見つけ、改善に繋げるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生い立ちや生活歴、日々のコミュニケーションから利用者の性格を理解し一人ひとりに合わせた対応をしている。その人らしさを尊重し、日常の言葉使いについても尊厳を持ち対応している。	利用者に対して「さん」付けで話しかけるなど、理念に基づき愛情を込めて、丁寧な言葉遣いを心がけている。居室の入口には暖簾を掛け、プライバシーに配慮している。トイレ誘導の声掛けは周りに聞こえないよう小声にしたり、失禁の際には「きれいにしましょうね」と優しく話しかけるなど気配りしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や態度コミュニケーションの中で気持ちを確認しながら意思決定できるように声掛けを行っている。話すことが苦手な利用者には閉じた質問で意思表示できるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間、出来る限り個人のペースに合わせている。様子や会話からやりたい事を把握し家事仕事、キーボードや歌詞カード、パズルゲーム等提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えられるように蒸しタオルやブラシ、髭剃りを手渡したり、声掛けを行っている。必要に応じて介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きご飯、麺とそれぞれ提供している。旬の食材で季節を感じて頂いたり希望の献立を伺い食事行事として行っている。食事の後片付けを一緒に行っている。	献立や調理は職員が交代で担当しており、利用者の好みのものを聞き出して提供するようにしている。利用者では出来る範囲でテーブル拭きや茶碗拭きなどを手伝っている。誕生日には、その人の好みのメニューで楽しんだり、ホーム内イベントとして「回らない寿司」や「夏祭り屋台」等を行い、楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を工夫している。食事量、水分量を記録している。ムセ、嚥下状態の悪い方にはお粥や刻み食を提供している。水分量が少ない方には好みの飲み物を小まめに提供する等工夫している。また、月1回管理栄養士が来訪し助言及び指導を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分できる方には声掛けをして行っていただき、出来ない方は歯ブラシを手渡したり義歯洗浄を介助している。6ヶ月に1回口腔・栄養スクリーニングを行い口腔内の状態を把握、改善の参考にしている。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように個々に合わせた時間に声掛け、誘導を行い出来ないところを介助している。自尊心を傷つけないよう配慮しながら対応している。	排泄チェック表をもとに適時の声掛けとトイレ誘導を行っており、夜間は1人がポータブルトイレを使用するほかは、全員がトイレでの排泄となっている。また、オムツ使用者はおらず全員がリハビリパンツ使用となっている。機能が低下する方は殆どなく、利用者の安心な暮しにつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の好みに合わせた飲み物やヨーグルトを提供している。また、オリーブオイルの使用も試みている。必要に応じて下剤を使用しながら排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に好みの入浴剤を選んでいただき色、香りの他話の種になり入浴を楽しんでいる。出来る範囲で利用者の希望やタイミングに合わせて入浴している。	週3回の入浴を基本としており、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴としている。入浴を嫌がる場合には、翌日にするとか介助者を変えるなど、工夫して対応している。職員と1対1となり、会話を楽しんだり好きな歌を唄ったりして楽しまれている。ゆず湯や菖蒲湯も行い喜ぶ方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を居室に置き安らげる環境作りを心掛けている。落ち着かれない利用者には傾聴、共感しタッチケア等安眠出来るよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のために声出し確認を行い、確実に服薬できるよう利用者の状態に合わせた服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、洗濯干しや食器洗い、食器拭き等役割の提供している。野菜の収穫や草取り、キーボードを弾いたり絵を描く等一人ひとりの嗜好を提供してやる気の出る支援を心掛けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が難しいが馴染みの場所や紅葉等ドライブで車窓から風景を楽しまれた。また、天気の良い日には敷地内の散歩を行っている。	以前のような外出支援ができない状況にあるものの、お花見の季節には、感染対策をしたうえで近隣の水沢競馬場や展勝地にドライブして花見を楽しんでいる。秋には紅葉見物のミニドライブも行っている。天候を見てホーム周辺の散歩も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物が難しいが広告を見て、何がいくらする等会話をして金銭感覚の維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	季節ごとのハガキを作成している。本人の意思や希望に合わせて作成の支援を行っている。また、家族からの電話を取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて歌の歌詞や作品を飾っている。各居室にのれんを取り付け、利用者が居室に居ても生活感を感じながら過ごせるようにしている。	ホール内はエアコンと床暖房、加湿器で適温に空調管理され快適さが保たれている。テーブルが3カ所に置かれ、利用者はそれぞれに好きな場所に座っている。季節を感じられるクリスマスツリーや壁面にはクリスマスグッズやリースなどが賑やかに飾られており、明るく開放感あるホール内で、利用者はゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌好きや話好き等気の合う利用者同士が同じテーブルになるよう席を配置している。また、窓際にソファスペースがあり居室、ホール、ソファスペースと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら自宅で使用していた馴染みのある物を持ってきていただき居心地よく過ごせるよう本人と相談しながら配置を決めている。	介護用ベッドやクローゼット、エアコンが備え付けられており、利用者はテレビやラジオ、衣装ケース、タンス、家族写真など馴染みのものを持ち込んでおり、居心地の良さが実感される。出入口には、目隠しを兼ねた長めの暖簾が掛けられている。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 四季の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、床がクッション素材になっている。トイレの案内表示、各居室の利用者の名前は利用者の目線の高さにして分かりやすい文字や絵と色で表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		